

## 『東北釜石演奏ツアー紀行』

(2019.11/29～12/1 東日本大震災復興支援演奏ツアー in 釜石)

SAC(三多摩アコーディオンクラブ) 大石奈緒子

東日本大震災の翌年から、『風のアンサンブル』の活動として川口先生と有志メンバーで続けてきたこのツアーは今回で8年目。初回の気仙沼から、大船渡、陸前高田、釜石…と、幾つかの町を訪問させて頂いています。訪問先は、仮設・復興住宅の集会所、高齢者施設、幼稚園など様々。三陸鉄道のイベントで、列車内で演奏させて頂いた事もありました。毎回マイクロバスをレンタルし、東京からメンバー&楽器全員分を詰め込み長距離を大移動していましたが、昨年からは鉄道を利用しての現地集合&解散となり、観光旅行を兼ねて参加するメンバーも増えています。今年は、宮沢賢治の記念館を訪ねたり、後泊して名物女将のいる釜石の旅館に泊まったメンバーもいました。私自身は今回で5回目の参加、釜石は3度目の訪問です。

さて、今回の釜石訪問。私を含め9名の参加です。縁あって一昨年から私達の訪問をコーディネートして下さっている『地域支援センター望(のぞみ)』にお世話になりながらのツアーです。

夕方の釜石駅、初冬という言葉が相応しい寒空の下で集合し、最終練習後、海辺のホテルにて就寝。宿泊先については、これまで公共の宿泊施設や仮設住宅でしたが、今回は初のホテル泊!! ゆったりと眠りにつき、朝は湯船に浸かりながら三陸沖から昇る日の出を拝む…というなんとも贅沢な気分を味わいました。

今回の訪問先は3カ所で、いずれも復興住宅(アパート)内の集会所でした。近隣の復興住宅からも足を運んで頂き、毎回十数名の方が参加して下さいました。プログラムは、1時間半。前半にアンサンブル&ソロ、中間に『お茶っこタイム』と称して参加者の皆さんとお茶しながら

の懇談&アコ体験、後半は合奏&歌伴…という感じの構成で行いました。曲目は『ラ・クンパルシータ』『コンドルは飛んでゆく』『四季の歌メドレー』等の聴き馴染みのある曲を中心に演奏、歌伴奏は『北上夜曲』『里の秋』などを弾きました。皆さん、手拍子交えて笑顔で聴いて下さったり、曲によっては涙ぐまれる方がいたり、アコーディオン初体験で大きな音が出てびっくりする方がいたり…と、音楽を通じて楽しいひとときを共有させて頂きました。私達にとっては、『お茶っこタイム』で皆さんから震災当時の事や現在の生活などのお話を聴く事が本当に貴重で、学ばせて頂いたり元気を貰ったりしています。皆さんのお話を伺うたびに感じるのは、何年経っても失ったものは元に戻る訳ではなく、明るい笑顔の下で、そういった思いや震災が原因での症状等をずっと抱えながら日々過ごしてらっしゃるとい事です。その事を私達は決して忘れてはいけないと思います。

町の様子は、この3年間で、道路や防潮堤、復興住宅、飲食店、伝承と防災のための資料館、ラグビー場など新しい建物が次々と建ち様相が変化しています。なによりも一番大事なのは、誰もが周りの人と絆を持ちつつ安心して暮らせること。地域の方達が新たなコミュニティーを構築していくためのささやかなお手伝いとして、今後も演奏活動でお伺い出来ればと思っています。

